

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第20号

2006年8月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

## 生態系調査—春の生きもの



6月5日(月)、会員有志と柄澤保彦先生のご協力をいただき、春のビオトープの生きもの生態調査を行いました。

全体的にはビオトープに変わった様子はなく、多様な生物層が見られます。昆虫類では時期的に、あちこちにフタモンアシナガバチ(写真右上)の巣作りを観察することができました。

鳥では、例年通り、オオヨシキリ(写真右下)が飛来していました。

カエル類ではビオトープを代表するニホンアカガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエルを確認することができました。また、カワウが寄り道してきたところを確認できました。魚類に関しては、相変わらずカダヤシが主で、他にモツゴやドジョウが確認できましたが、その中で昨年放流したメダカと思われる個体を確認することができました。このまま定着していくことができるのか見守っていきたいと思います。



また、今回の調査で目立ったことは、ギンブナの稚魚が多く確認できたことです。魚類以外では相変わらず数多くのアメリカザリガニの姿が見受けられました。昨年の秋頃に多く見られたスジエビは今回の調査では確認できませんでした。(松清 智洋)

### 植物部会

ビオトープには数多くの植物があります。その中で、ビオトープを特色づける植物は湿地性植物です。今まで調べた結果、ビオトープには54種の湿地性植物があることが分かりました。これに千葉県絶滅危惧種のヒメヘビイチゴを加えた55種を調査対象にしています。



昨年の調査では5種の植物が確認できなかった(今年に入って2種が確認できました)ものの、全体的には豊かで多様な植物相が保たれていることが分かりました。ビオトープは狭いながらも、水田や休耕田湿地や湛水池などの変化に富んでいることが多様な植物を育んでいることにつながっています。

水田には多くの種類の水田雑草があり、休耕田湿地にはセリ、ミゾソバ(写真)などのまとまった群落が見られ、湛水池にはヨシ、ヒメガマなどの大型植物が群生しています。この中で、休耕田湿地については草刈によって大型植物の侵入を絶えず阻む必要があります。ビオトープの景観と生きものを支える豊かな植物を守ってゆきたいと考えています。(佐々木 光正)

# きもーい！ざりがにだー！

## 水田稲作部会

## 名戸小児童が泥んこで田圃の草取り



6月の合同作業日には田植えで傷んだ畦を直しました。しかし、7月4日(火)、10時開始の名戸ヶ谷小学校5年生児童60人による田圃の草取りで、またぐしゃぐしゃになってしまいました。草取り体験は初めてという60人の子どもたちが「きもーい！」「ざりがにだー！」と叫びながら踏みつけていましたから、まあ、仕方ないですね。

最初はなかなか田圃に入ってくれなかった子どもたちも最後には泥んこになって作業をしてくれました。土の中が掻き回されてよかったです。児童を引率・指導された5年担任の金正、飯塚の両先生、ご苦労さまでした。また、草取りの指導・手助けに駆けつけて頂いた13名のビオトープ会員のみなさんもお疲れさまでした。

なお、この日の草取り作業で傷んだ一部の畦は7月16日の合同作業日に補修しました。また、7月23日、田圃のあちこちで稲の「花」が咲いているのを発見しました。株全体で咲いているもの、一本だけ咲いているもの、いろいろです。花が咲いた時に雨にあたると豊作は望めません。一日も早い梅雨明けが待たれます。稲穂が出揃い始めると、こんどは雀が狙います。早めにネットをかけましょう。(小笠原 智)



## ひとくちインタビュー — 広報編集部

- 田圃に入ってみたら大きい蛙とか小さい蛙とか、ウシガエルがいっぱいいて、気持ち悪かった(男)
- あったかいところと、すごい気持ち悪いところとかがあった(女)
- 茶色の蛙、オタマジャクシとか小さいエビがいっぱいいた。(女)
- 蛙を踏んだ感触が気持ち悪かった(男)      ○足を抜く時、とても重かった(女)
- すごくどろどろして気持ちわるかった(女)      ○気持ちよかったような、悪かったような・・・(女)
- ザリガニを踏んで気持ちわるかった(男)      ○超汚いけれど、超きもちいい(男)
- ザリガニに足をはさまれた(男)

## 小・中学校の先生方がビオトープ見学

## 夏季研修



7月26日(水)、名戸ヶ谷小学校体育館を会場に、午前11:00から、柏市立教育研究所主催第2回環境教材研修講座が開かれ、環境保全課(田村主幹)、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会(篠崎会長)、名戸ヶ谷小学校(6年担任、なぎ野先生)が講師として、市内61の小・中学



校から参加の先生方に、プロジェクターを使って解説しました。炎天下での猛暑による熱射病の危険を避けて順序を変更し、先に10時からビオトープ見学を行い、植物部会長の佐々木さんと篠崎会長がそれぞれ約30人の先生方を先導・案内しました。炎天下の見学から戻った一行への冷たい麦茶のサービスと各講師が紹介する熱心な日頃のビオトープの活動に対して拍手が起きました。(広報編集部)

## 不耕起稲作部会

# 防水と施肥の作業を終えて

5月の田植えのあと、水量管理のために田圃を訪れていたが、「不法滞在者」の活動が活発になり、多くの漏水箇所が見受けられた。そこで、6月の重点作業として「防水シートの敷設」と「肥料散布」を実施することにした。

6月上旬にシート敷設 20M、米糠約 60Kg、雑草刈。合同作業日にシート敷設 45M、有機肥料(鶏糞・豆類)95kg、稲の補植、除草、畦道修理。しかし、漏水箇所が至るところにあり、肝心のシートが品切れのため、入庫次第引き続き取り組むこととした。



7月に入り4日に名戸ヶ谷小5年生と合同で除草作業と不耕起田んぼの水抜き(根張りの促進)、15日の合同作業日には草刈りと稲の生育状況を確認し通水した。月末には防鳥ネット張りを行う予定です。尚、不耕起田んぼの除草をしたのは全員が5年生女子。初めての経験でした。(窪田孝志)



### ひとこと感想：

田植えと全然ちがう。草取りは下に虫がいると思うとこわい、というか、踏むのがかわいそうになって・・・

水がすごく少なくて手にいっぱい泥がつきやすかった。

どろどろで歩けないくらいだけど楽しかった。

蛙やザリガニ、バッタがたくさんいた。

## 不耕起水田に初めて肥料

不耕起水田は休耕田を転用して4年目になります。これまでは切り藁、籾殻、糠などを秋に入れてきましたが、それだけでは肥料分が足りないためか、年々生育が衰え、収量も減ってきました。従って、今年は分けつ肥料として6月17日に、無施肥田、豆腐田、有機肥料田、有機化成混合田、化学肥料田、と5区に分けて施肥してみました。今後の生育状況の差異を見守りたいと思います。

(影山 賢三)



作業の後でほっと一息

## ホタル・生きもの部会



7月9日(土)にホタルエリアに遮光幕を張りました。7月1日の幹事会でホタルエリアで2匹のヘイケボタルを確認したという報告があったためです。8月中は遮光幕を張ったままにして、来年へつなげていきたいと思います。一方で、昨年より採卵して成虫まで飼育しているホタルから、来年へ向けて採卵しています。来年は放流する数を増やしていく予定です。課題は、これまで通り、アメリカザリガニ対策ですが、これは夏に入って以降、爆発的に増えているようです。ちなみに名戸ヶ谷病院駐車場裏のホタルは例年並に発生しているようです。こちらはそっと見守っていきたいと思います。(松清 智洋)

# ビオトープの生きもの

## メダカ

## メダカ科



全長 2～4cm. 体色は側面が淡褐色で、背面は黒褐色、腹面は淡色である。目が大きく、下顎が長い。雄は背びれの外縁に切れ込みがあり、しりびれは大きく平行四辺形をしている。水田など流れのゆるいところを好む。農薬による水質汚染で減少し、カダヤシとの生存競争で生息域は少なくなり、重要保護生物に指定されている。食物は動物性プランクトンを主とする雑食である。国内でも地域によりDNAが異なるので、遺伝子の混雑を防ぐため、移動しないよう呼びかけている。

## カダヤシ

## カダヤシ科



全長 2～5cm. 体色は側面が淡褐色で、背面は褐色、腹面は銀白色。雄の腹は青っぽい。尾びれは丸まっている。ボウフラ駆除（カを絶やす）を目的に米国南部から移植された。環境への順応性が高く、汽水域や汚染路にも生息する。交尾により体内受精し、仔魚を直接生む。メダカと間違われることが多く、泳いでいる状態では判別が難しい。同時期における稚魚の大きさが全く違うのでメダカの稚魚は食べられてしまうことが多い。食物は動物性プランクトン、

水生小動物。ビオトープでも駆除しなければならない生きもの的一种である。 (篠崎 将)

## 炎天下の草刈を終えて団樂のひとつ

-7/15 ビオトープ合同作業日



合同作業日の7月15日(土)、かしわ環境ステーション学習部会主催による「子ども環境フェスタ」がかしわ環境ステーションで開かれました。

「夏休みの自由研究のヒントを探そう」というサブタイトルで設けられた遊びのコーナーの一つでは、

## 縄を編んで縄跳びあそびしよう

「子ども環境フェスタ」で親子にレクチャー



名戸ヶ谷ビオトープ会員の影山、山谷、田中さんたちが縄の編み方を子どもやお父さんたちに教えていました。クーラーもない暑い中を午後2時すぎまで。本当にごくろうさまでした。(広報編集部)

## 編集後記

咲き始めた白い稲の花が日毎に数を増してきたかと思うと、もう梅雨明け宣言。戸口のところで待っている真夏の太陽の下で、これからは稲穂もぐんぐんと伸び、秋9月の稲刈り・脱穀を迎えることでしょう。出始めた稲穂を狙っているのが雀です。例年は7月末に終わっている予定の雀対策ネット張り、8月、炎天下での雑草取り、大型植物刈り取りなど、熱中症に十分注意しながら、無理をせずに、みんなで楽しみながらやっていきましょう。

広報編集部(春山)